

私は昨日まで、沖縄本島と石垣島で、聖書講演会や公立小学校での教育講演会をさせていただきました。聖書講演会では開始1時間前から人が並んで、集会/教会堂の中の椅子を全部並べても座られへんという事で、クリスチャンが自宅に帰って椅子を持って来て。それを並べても座り切れず、75分間立ち見。申し訳ないと思いながら、よう考えたら、私も立ち見というか、私は座って話してないので、一緒やないかと思って見てたんですが。

終わってから、たくさんの方が挨拶に来られました。1人の方が名護から来られて、会場の豊見城（とみしろ）までは車で1時間半以上かかる。私と同年の女性です。3年前にご主人を亡くされて、今アパートで1人暮らし。長年連れ添った伴侶が亡くなって3年。3年くらいでは喪失感が消えませんよ。ご主人が亡くなった季節・日にち・一緒に過ごした場所などに行ったら、どうしても思い出が湧き返って来て、たまらなくなる事もあると思います。

ある時 YouTube で、ここで行われている聖書メッセージを見て慰められた。聖書の中で、神様が特に愛する者は誰か？神には色んな別名/タイトルがあって、その中に「わたしはみなしごの父、やもめの夫である」と書いてある。神様は全ての人を愛しているけど、特に両親を亡くした子供たち、そして伴侶を失った者たち、地上で頼りになる者を失った人に対して、特別に憐み深い方。「その聖書のメッセージで、本当に満たされて嬉しくて、こんな風に恵まれ、こんな風に励まされました」と言いながら、「もう1つ、YouTube 見ているといい事がある。」

朝から晩まで YouTube を流していて音量が大きい。同じアパートの住民が「男の人、入って来たんちゃうか？」ドアの前に行くと、しゃがれた大阪弁のおっさんがわめいているというか、ほたえて（騒いで）いる。「ここ、男の人いるんや。」これはセコムになります。女性の1人暮らし、何があるか分からない。だけど、男の人が中で、しかも、ややこしそうな事喋って。「こんな所、盗みに入られへんで」という事で安全保障になる。「大変お世話になってます」とね。

そういう使い方もあるのかと。全国の1人暮らしの女性の皆様にここで言いたい。今、チャンネル登録してください。これで、またちょっとアップして行ったらいいかなと思うんです。冗談はさておき、黙示録のメッセージも随分楽しみにしてくださっている。励まされて戻って来ました。

今まで7つの教会の、1番目から6番目の教会に語られた言葉が終わりました。今日は7番目の教会について、一緒に考えたいと思います。

黙示録は大きく3つに分ける事ができます。

過去に起こった事・ヨハネが書いている現在に起こっている事・未来に起こる事。

過去に起こった事とは、ヨハネが1章で見たイエス・キリストの栄光の姿。

今ある事とは、ヨハネが教えられている7つの教会への個別メッセージ。

そして最終的に4章から最後までが未来の事。未来の事は患難時代という特別な7年間の苦難の時代についてが大部分で、最も多いページ数を割いています。

昨日関空に到着した時、やたらとマスクをしている人を見ました。沖縄では見ませんでした。沖縄は27°C。それに慣れて大阪来たらブルッ！でも、大阪にも新型コロナウイルスに感染したバスの運転手が来られ

ていて、彼と行動していたバスガイドさんも感染していた。

家内が空港に迎えに来てくれたんですけど、開口一番「マスクしてっ！」するまで近寄るな！みたいな感じで。しなかったんですが。「して」と言われると、したくなくなる。

新型コロナウイルスを電子顕微鏡で見ると、ギザギザが付いていて、これが王冠に見えるんです。

王冠はラテン語でコロナ。スペイン語もコロナ。英語ではクラウン。ドイツ語ではクローネ。

全部同じ意味。元々コロナという言葉から派生して、色んな言葉になって行くのですが、王冠のように見えるからコロナウイルス。

コロナウイルスは今まで6種類あって、その内の4種類はありふれたコロナウイルスで、この辺にいっぱい漂っています。例えば、体調悪い時に風邪ひきますが、それもコロナウイルスです。

だけど、残り2つがちょっと致死率が高いというか、感染力が凄いというか、罹ったら大変になるという病気で、それがSARSとMARS。SARSとMARSは今のところ抑え込まれていますが、今回第7番目のウイルスが出たわけですね。まだ名前が付いていないから、新型コロナウイルスと言っている。

これが爆発的に感染して、中国政府は6千人罹ったとか言っているけど、あんなの信用できるはずがない。中国共産党の公式声明、昔から「人民日報」で正しいのは日付けだけ。書いてあるのは全部ウソやん。だから6千人というのは、まずゼロを1つ付けた方がいいと思います。少なくとも6万から10万くらい。

これが恐ろしいのは、SARSは罹ったらすぐに発症して対処できるけど、今回は潜伏期間が2週間。

しかも、普通は発症してからしか感染しないのに、これは潜伏期間中に感染すると言うんですよ。

だから、罹っていても潜伏期間なので、体温全然上がってない。体の不調がない。

それで、大丈夫と思って走り回ったり、動き回ったりするから撒き散らすんですね。

今世界中にこれが蔓延してしまっただけで、皆戦々恐々になっているわけです。

ところで、中国に1番依存している国はどこでしょう？日本も日中貿易で随分儲かっていると思いますよ。だから、中国との貿易がなかったら、すごくダメージがあると思いますが、なかったとしても、日本経済・或いは国家が倒れるという事はないですよ。

だけど、中国に全面依存して立っている国がありますね。北朝鮮。

その北朝鮮ですら今、中朝国境完全ストップ。感染している人たちが北朝鮮に入って欲しくないから。

北朝鮮は冬で、食べ物が無いでしょ。1月・2月、これからもっと寒くなって行く時、感染力の強い新型コロナウイルスが入って来たら、国が無くなるかも分からない。国民がごそっと倒れるかも分からない。

だから、水際作戦で国境を閉じた。

日本は自己申告。「咳が出たり、発熱している人は、検疫所まで来てください。」アホか！ほんまに。

何してるん?!昨日チャーター機で着いた人たち、共同記者会見してるやん。それ、潜伏期間やったらどうするん？そんなバカな事やってるの、日本だけです。まあ、ガードが甘いと言うか、何と言うか大変です。なぜこんな話をするかという、今日の箇所は、まだ患難時代前なんです。

キリストがまた空中まで来られた時、**携拳**と言って、**7つの教会**/クリスチャンたちを皆引き上げます。

但し、自称クリスチャンではなく、本物のクリスチャンだけ。

本当にイエス・キリストを救い主として信じている人たちだけが引き上げられる。

だから、自分ではクリスチャンと思っていながら、実はそうじゃなかったというクリスチャンや、殆どが

そんなクリスチャンで構成されている教会は、そのまま地上に残るんです。

携拳の後、しばらく時間がありますが、やがて反キリストという人物が登場して、イスラエルと7年有効契約を結びます。7年有効契約を結んだ当日が**患難時代**の初日です。

そこから、ユダヤ暦で数えてちょうど7年目にイエス・キリストが**地上再臨**します。

**7年間の患難時代**は非常に恐るべき時代です。スタートは反キリストが7年の有効契約を結ぶ時。

最後はイエス・キリストが**地上再臨**して**患難時代**が終わる。

この7年間は、前半3年半と後半3年半に分けられて、後半の方がもっと凄まじい。恐るべき時代。

**黙示録**は、「患難前半に入った時に、段階を経てこうなります・こうなります」という事を前もって語っていて、その最初に、4つの段階が4頭の馬になぞらえて説明されているところがあります。

**白い馬**が出て来て、**火の馬**が出て来て、**黒い馬**が出て来て、**青ざめた馬**が出て来る。

この**青ざめた馬**/青い馬が出て来ると、地上の人口の1/4が死滅します。

死ぬ理由は4つ。その1つが死病です。死病。要するに、爆発的な感染力を持った伝染病。

感染大爆発の事をパンデミックと言います。ワクチンなどが存在しないウィルスなどが散らばって行ったら、人には抵抗力がないのでバタバタと倒れる。

2018年1月、武漢に武漢国立生物安全実験室が作られました。

これは武漢のウィルス学研究センターの隣に併設されています。

ある人は、「武漢国立生物安全実験室は、生物兵器を作っている機関ではないか」と。

1年前の2017年、ここをよく知っているアメリカの生物兵器専門家ティム・トレバンが、「管理法がずさんなので、この生物兵器を作っている所から兵器としてのウィルスが外に漏れて、人々が大変な目に遭う可能性がある」みたいな事を、雑誌ネイチャーに投稿していると言うのです。

生物兵器の場所と華南（かなん）海鮮卸売市場は32キロしか離れていません。

これは証明されていないので、「そういう事を言っている人もいますよ」くらいの話で聞いておいていただいたらいいんですが、もしそうなら、これはえらい事です。

こういう感染爆発が起こると、死なないような病気であったとしても、経済的ダメージは計り知れない。例えば、そんなウィルスに感染している作業者が日本に健康な状態に入って来て、人間爆弾として、新しいタイプのテロをするという事もあり得るんじゃないですか？ 今年には東京オリンピックですよ。

**黙示録**の中に、こんなウィルスというか、死病・感染力が強い凄まじい病気によって、世界人口の1/4がわずか数か月で死んで、人口が大激減するという事が書いてあるんです。

今はその時代にまだ入っていない。けれども、昨今のニュースで経験している事は、**黙示録**で起こる事の規模を小さくしたのを見せられていると思います。つまり、私たちは**終末時代**を生きている。

私たちは**世の終わりの時代**に生かされていると言えるのです。

今日の**ラオディキア教会**は、歴史的には、**患難時代**に1番近い時代の地上に置かれている教会です。

**黙示録 1:4** ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。

今おられ、昔おられ、やがて来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、**黙示録**の宛先は**アジアにある七つの教会**。

黙示録 1:11 その声はこう言った。「あなたが見たことを巻物に記して、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアに送りなさい。」

ヨハネの黙示録は、この7つの教会に宛てた手紙で、7つの教会には3つの意味があります。

①黙示録が書かれた時代に実在していた教会。今日は7番目のラオディキア教会を見ます。

②世界中にキリスト教会があって、イスラム圏ですら、内緒で集まっている教会があります。色々な教会がありますが、それらはここで紹介されている7つのタイプのどれかに似ています。何から何まで、細かい点に至るまで完全に一致という事ではない。

でも7つの教会は、今存在している教会のタイプを代表しています。問題のない教会はないでしょう。その対処も全て、この7つの教会の手紙に書いてあるんです。

③今までずっと見てきましたが、2000年間の教会歴史を考えた時、7つの教会が登場する順番/特徴の順番を並べると、教会史の動きと非常に見事に重なります。

前回のフィラデルフィア教会は19-20世紀の教会で、大リバイバル時代・世界大宣教時代の教会。

今の聖書の色々な参考書や学びは、大宣教時代に、聖書を正確に読み取る事ができた先輩たちの遺産に依っている部分が多いのです。素晴らしい時代でした。

その後が7番目のラオディキア教会。8番目の教会はありません。という事は最後の教会です。

ラオディキア教会は20世紀/1900年から今日（こんにち）に至るまでの教会。

黙示録 3:14 また、ラオディキアにある教会の御使いに書き送れ。

「アーメンである方、確かで真実な証人、神による創造の源である方がこう言われる—。」

ラオディキアは人の名前でした。昔ここにヘリオポリスという町があって、その王様は大変な愛妻家。妻を熱烈に愛していて、彼女の名前がラオディキア。愛する妻の名前を町の名前にしたんです。

ラオディキア。人の名前だけど、意味は「人々が支配する」。「ラオス」は人々。

ラオディキア教会は「人間が支配する教会」と読めない事もない。

聖霊に導かれるのではなく、人間に導かれて行く教会。

ラオディキアは今トルコにあって、現在はパムクレという町です。

ここに2つの川が合流していて、1つはミヤンダ川。泉が湧いていて、アナトリア山地からずっと流れて、谷底を辿って、川に流れて行くのですが、山から流れて来た川なので非常に冷たい。水温が低い。

ラオディキアの裏手に山があって、山の上には温泉が湧いています。温泉から出る川の水はお湯。

それがずっと流れて冷めて行くのですが、お湯と冷水が合流する地点の町がラオディキア。

だから、ラオディキアのすぐ近くを流れている川の水は生ぬるいそうです。これを頭に入れておいて…。

14節はイエス・キリストの紹介です。イエス・キリストはどういう方か、3つ言われていますね。

①アーメンである方。アーメンはヘブライ語です。

②確かで真実な証人。嘘偽りが一切ない・偽証しない証人。この方が言われた事は額面通り信じていい。話を盛ってない。そのまんまだから、まともに信じていいし、信じない方がずれている。絶対的な信頼に値する方。

③神による創造の源である方。キリストは全被造物を造った源。つまりキリストは神・創造主。

なぜこの3つで紹介されたのか？これから語られるラオディキア教会は、真実さがなく、信仰がなく、もう1度一から作り変えられなければならなかったから。

ちょっと考えを変えるとか、やり直すとかのレベルでは回復できないような教会。

ラオディキア教会が回復するには、アーメンである方であり、確かに真実な証人であり、無から有を造る方以外に解決はもうない。

逆に言えば、ラオディキアほど堕落していても、イエス・キリストに行くならば解決がある。

ラオディキア教会の回復に必要なものは、全てイエス・キリストの中にあるのだという宣言です。

黙示録 3:15-16 わたしはあなたの行いを知っている。

あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

そのように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしは口からあなたを吐き出す。

キリストはラオディキア教会/世界中の教会の内面・行われている事を熟知している。

「熟知している」の後で、3つの状態の紹介をしています。①冷たい状態 ②熱い状態 ③生ぬるい状態。

キリストから「オエー」と吐き出される教会。

### 1. 冷たい状態

「冷たい扱いを受けた」の「冷たい」はどんな意味ですか？ 邪陰にあしらわれたり、無視されたり、交流を絶たれたり。

第二次世界大戦後に冷戦時代がありましたね。共産圏と資本主義圏がベルリンの壁・東西の壁・鉄のカーテンによって互いに交わらない。関係ない。拒絶する。敵視する。

冷たい状態の人…キリストに対して冷たいとは、信じていない人の事。

教会のメンバー、だけど信じてない。クリスチャンでないのに、自分ではクリスチャンだと思っている。

これは、キリストに対して冷たい。体温がない。死んでるのと同じ。

「クリスチャンで、実はクリスチャンでないってあり得るのか？ほな、俺、大丈夫か？」

一度考えたらどうですか？

日本の仏教徒は、「一応うち真言宗ですから。」「真宗ですから。」「禅宗ですから。」「曹洞宗ですから。」

色々言うけど、宗派の経典、読んだ事ありますか？ないと思うんですよ。何が教えられているか知らない。

でも「〇〇宗だから」って言いませんか？家の宗教に所属しているだけです。

それと同じように、キリスト教文明圏では「うちの家、ずっとクリスチャンやから、私もクリスチャンや。」

「クリスチャンの家に生まれたから自動的にクリスチャンだ」と思っている人はなんぼでもいますよ。

この方々は一生に1回も聖書を読まないと思います。「教会？ なんも関係ない。」

でも幼児洗礼を受けていたり、名前にクリスチャンと付いているクリスチャンでない人がいる。

ざらにいますよ。

昔飛行機の中で『ゴッドファーザー』を見ましたが、何とも言えないシーンがありますね。

イタリアマフィアのシチリア島の人たち。ドンが「アイツ、殺（や）って来い」と言って、おっそろしい殺し方で人を殺すんですが、日曜日にミサに行って祝福を受ける。

で、また月曜日から土曜日までやりたい放題。犯罪の限りを尽くして、日曜日ミサに行って教会生活。クリスチャンじゃないです。自称クリスチャンではあるでしょう。でも、この人たちにはいのちがない。聖書が言っているクリスチャンではない。信じていません。

## 2. 熱い状態

キリストの愛を知って、それが自分の心に流れ込んで、理解すればするほど心が沸き立ち、キリストに情熱的に応えて行かざるを得ないという燃えるクリスチャン。情熱的。

僕が知っているクリスチャンは高校教師で、いつも1時間目の授業の時に「諸君、私はこういう者だ！」と言って「キリストバカ」と書くそうです。

これはミッションスクールだから許される事で、普通の公立では中々難しいと思いますが。

冷たいクリスチャンは信じてない人。自称していてもノンクリスチャン。救われていません。

熱いクリスチャンは献身しているクリスチャン。神様/イエス・キリストに従って行きたいと思っているクリスチャン。

ところが、3. あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもない。

完全にキリストを否定したら「冷たい」。でもこれは、否定するわけじゃない。

習慣としてはやっているでしょう。毎週日曜日、教会に行っているかも分からない。

結婚式は結婚式場で、教会式でやると思います。だけど信じてない。

自分のライフスタイルの中から、キリスト教文明圏で派生したものを除外しているわけではない。

反対しているのではない。だけど、信じているわけでもないんです。生ぬるい。

冷たいか熱いかであってほしい。冷たいは拒否している事。生ぬるいより、まだ拒否されてる方がいいと。なぜかという、拒否している人は拒否するがゆえに、突き刺さるようなメッセージにぶつかった時、「そうか！知らなかった！」と言って、悔い改めて救われる可能性がある。

ところが「俺、もう大丈夫やもん。これでいいし」と思っているような人には、これが起こりにくい。

起こらない。「もう、耳にタコ出来た。」皆さんの中におられませんか？

「教会に来て50年。スゴイヤロ！」って、キリストと出会わないと駄目なんですよ。

長く来ているという事に価値があるのではないんですね。生けるキリストと出会う事が大事なんです。

生ぬるいというのはそういう事です。

生ぬるいという場合、2つ考えられます。1つは、自称クリスチャンだけど、実は救われていない人。

もう1つは、クリスチャンではあるけど、あまりにも信仰が後退し過ぎて、ノンクリスチャンと見分けがつかないクリスチャン。

道徳的なノンクリスチャンよりも、よっぽど不道徳な事をしているクリスチャン。

この場合も、生ぬるいという事が当てはまるかもしれません。

どっちがどうというのを人間が見分けるのは限りなく難しいと思いますが、とにかく、生ぬるい人とは両方考える事ができると思います。

正直言って、私はラオディキア教会は、殆どノンクリスチャンで構成されている教会だと見ています。

本物のクリスチャンもいたかもしれない。でも、ラオディキア教会の大部分は、ちゃんと信じていない人たち。今の時代で言うなら背教の教会。なぜかという、一切褒められてないんです。

今まで6番目までの教会を紹介しました。それぞれに問題があったけど、特に「これ、えげつないで」と言われる教会、例えばペルガモン教会。ペルガモンは結婚の意味で、**国家と結婚した教会**のひな型。国家宗教になったキリスト教で、異端の教えが入り込んで来るという状態だけど、ペルガモン教会でも、ちゃんと褒められています。キリストは評価するところはちゃんと評価しておられる。

ペルガモン教会が一層ひどい状態に墮落して行ったのがティアティラ教会。

異教の教えに支配されている教会で、これはもうどうにもならない状態なんですけど、それでも、それでもですよ、「あなたが持っているものを、わたしが行くまで、しっかり保ちなさい（黙示録2:25）」と、クリスチャンとしての扱いというか、言葉かけ・励ましがあります。

サルディス教会は**死んだ教会**だと言われているけど、死んでいても、「わずかだが、生きているクリスチャンがいる」と、やっぱり褒められている。そこを評価されるんです。

1番目から6番目までは、それぞれ問題・困難があるけれど、1つくらいは励まされているというか、褒められている部分があります。

しかし、ラオディキア教会は一切褒められてない。というか、褒めるところがない教会。

励ましも慰めも称賛もない。なぜなのか？どういう状態の教会なのか？

黙示録3:17 あなたは自分が富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸である事が分かっていない。

あなたは自分が富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているから、この教会は経済的には豊かで、この世的には成功している。恐らくでかい建物・たくさんのメンバー・何もかも揃った設備・社会的な有名人がいっぱいて、政治権力者にも知り合いやパイプが多くあり、経済的にも政治的にも発言力があるような教会だったのかもしれませんが。何も困った事が無い。有力でチヤホヤされている。

しかし神の目には、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸である事が分かっていない。

5つ非難されています。①みじめで、②哀れで、③貧しくて、④盲目で、⑤裸である事が分かっていない。

裸である事が分かっていない。あなた方は裸なんだ。なので、

黙示録3:18 わたしはあなたに忠告する。

豊かな者となるために、火で精錬された金（きん）をわたしから買い、あなたの裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い、目が見えるようになるために目に塗る目薬を買いなさい。

白い衣を買いなさい。黙示録で白い衣は、一貫して「救いの象徴」です。「白い衣を着る」という事は、「イエス・キリストの救いを身にまとう。イエス・キリストを信じて救いをもらう。」

黙示録3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。

またわたしは、その者の名をいのちの書から決して消しはしない。

「白い衣を着る」という事と「いのちの書に名が載る」という事を結び付けて語っています。

これは、天国に行く/永遠のいのちがあるという事です。

だから、白い衣を着た人は救いを受け取った人。それを着ていない裸の人は救われていない人。

教会に向かって「あなたは救いを受け取っていないぞ。」これが最も字義的な解釈ではないかと考えます。

なぜ**白**いかというと、また後で出て来ますが、「キリストの血で洗ったので白くなった」と書いてあるんですね。私たちの全ての罪が、キリストの血潮によってきれいに清められるので白くなった衣。「キリストの血によって罪赦された」という救いの事を**白い衣**と言ってるんだと思います。

昔、こんな話を聞いた事があります。羊は基本的に双子を産むんです。1匹だけ産む事は殆どない。だから倍々が増えて行く。だけど出産トラブルで、死産で産まれる赤ちゃんがいるかと思えば、難産過ぎて、子羊は産まれたけど母羊は命を落とすという場合もある。母羊が死んだら、子羊はどうやってミルクをもらう事ができるのか？羊は自分の子供以外にはミルクを与えないんですよ。臭いを嗅いで、「これはよその子や。私が腹痛めて産んだ子とちゃうわ」という場合はお乳をあげない。

そこで羊飼いたちは、死産の子羊の皮を剥いで、母羊を失った子羊にその毛衣を着せる。すると、死産の子の母羊はお乳を飲ませるんです。臭いは我が子だから。そのままなら絶対に受け入れてもらえなくて、命の滴を受け取る事ができない。しかし、子羊の死・死んだ子羊の衣をまとう事によって、我が子のように受け入れてもらえる。

これは本当に、神が罪人である人間を受け入れてくださるのはイエス・キリストの償い、イエス・キリストが死んでくださったがゆえに、私たちは子供のように受け入れられる、という事を表しているようにも思うのです。

**裸**のままというのは、その衣を着ないで、裸のままで受け入れてもらおうとする事。出来るわけがない。あなた方は**裸である事が分かっていない**。聖書で言う裸は「罪」を表します。なぜクリスチャンに**裸**と言っているのか？この人たちはキリストを信じていないクリスチャンだから。家代々はキリスト教かもしれないけど、個人的にイエスを信じているわけではないんですね。

**目が見えるようになるために目に塗る目薬を買いなさい**。  
ラオディキアは目薬の生産地だったそうです。東大阪市みたいな。ロート製薬本社がある…。  
**目が見えるようになるために**。目薬にも色んな物がありますよ。

去年、母が白内障の手術して、両眼にアクリル製の人工レンズを入れて、「これで、よう見えるようになった。」というか、「前から見えてた」と言うので、困ってしまったところがあるんですけど。手術して終わりやと思ってたら、皆さん、白内障の手術した後、朝昼晩、目薬ささんとダメなんですよ。急性期の病院で手術受けた時、2か月やってくれと。2か月！朝昼晩・朝昼晩の目薬を2種類。しかも、1分くらいずつ時間あけんとアカンとか言うて。それが切れて、近くの病院へ行ってくださいと。

近くの病院に行ったら、その院長の方針は、1度この手術受けたら死ぬまで点眼。まだやってますねん。目薬くらいと思うかもしれないけど、面倒くさいですよ。自分でやるんじゃないんだったら。毎日毎日。「ぼくらは鉄板の♪」じゃないですけど。目薬さして「いやになっちゃうよ♪」ね。でもそれは、レンズが人工物なので、目が炎症を起こしたりしないための目薬。

ここでは不思議な目薬で、**目が見えるようになるための目薬**。すなわち、見えない状態の人への目薬。新約聖書で**盲目の者**とはキリストを信じない人です。もちろんクリスチャンに対して語っているところがあるかもしれませんが、**盲目**という事を議論して、3ページにわたって、ずっと物語が続く箇所があるんですね。**ヨハネの福音書の9章**です。

ある時、イエス・キリストが生まれつき盲人の目を癒しました。ところが、治した日は安息日だった。安息日はユダヤ教の掟では絶対に働いたらあかん。目を治すという事は治療行為という労働を行った。もしこの人がキリストなら安息日を破るはずがない。だから彼はキリストじゃない！と、当局者たちがいきり立つのです。

治してもらった本人は喜びを隠せないんですね。だって、今は見えるから。

「お前はあの男をどう思っているんだ？」「いや、私ね、難しい神学論争は分からへんけど、1つの事は分かるんですよ。今まで見えへんかったけど、今見えるんです。今まで見えなかった。しかし、私は今見えるという事です。」

「では、お前もあの男はキリストだと言うのか？」「だって、未だかつて、生まれつき目が見えなかった人の目を開けるなんて、そんな話聞いた事がありません。神から出た人でないなら、どうしてそんな事ができるでしょう？」「だったら、お前もあいつの弟子か?!」彼はユダヤ人の共同体から除名されます。

除名された元盲人の所にイエスが現れて、「あなたは人の子、すなわちキリストを信じますか？」

「主よ、その方は誰でしょう。私がおの方を信じる事ができるように教えてください。その方は誰ですか？」

「あなたと話しているわたしがそれだ。」僕、ここがメチャクチャ好きなんですね。ほんまに。

そして、イエスを信じて礼拝したと書いてあります。その後で、キリストは言われました。

ヨハネ 9:39 「わたしはさばきのためにこの世にきました。目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」

「肉眼が見えている人でわたしが見えない人は、わたしを受け入れていない人です。」

見える者が盲目となるとは、イエスを拒否する人は肉眼の目は見えていても、心の目は盲目の状態、イエスが分からない状態にいるので救われていません。

ラオディキア教会の人々は「目が見えるようになるために目薬を買いなさい」と言われたんですね。

彼らはクリスチャンと名乗っているのに、イエスがメシアだと分からない。救い主とっていない。

救われていない状態の人が大半を占めている教会。それがラオディキア教会だったと言えると思います。

ラオディキア教会の特徴は、先程少し言いましたが背教の教会なんですね。

歴史的に見ると、6番目が**大宣教時代のフィラデルフィア教会**。

7番目のラオディキア教会は**1900年くらいから今日(こんにち)**に至るまで。

この時代の教会の特徴は(皆が皆、そうだと言っているのではないですよ)、聖書を額面通りに信じるのではなく、信仰を必要としない仕方で聖書を解釈する。これを難しい言葉で「自由主義神学」と言います。

僕の大好きな番組はNHKの(僕はNHKをぶっ壊せと言えないんです。見てるから)『100分de名著』と『ブラタモリ』。めちゃめちゃ面白いですね。タモリ、すごい賢いですね。

『100分de名著』で**旧約聖書**がありました。25分番組を4回。千葉大学の哲学博士。オランダの神学大学を出て、本もたくさん書いている方が解説したけど、もう腹立って腹立って仕方なかった。ほんまに。あまりにも腹立ちながら4回とも見ました。見なかったら良かったんですけど、腹立って腹立って。

司会の伊集院光(いじゅういん ひかる)さんが、「今回は普通の哲学書とか色んな古典とかじゃなくて、何と言っても聖書だから、僕たちも厳かな気持ちで、心静めて、へりくだって読まない駄目ですよ」と

言ってるんですよ。あの人、地頭いいよ。ほんまに。

そしたら1回目で、この千葉大の先生、なんと言ったか。「伊集院さん、そう仰るけど、実は神というのは、バビロン捕囚時代にユダヤ人たちが発明したものなんですよ。」「でも、モーセとか色んな人が…」「あれはね、バビロン捕囚時代に考えて書かれた神話なんです。」「あ、そうだったんですか〜(笑)」と言っている伊集院さんが、何となく寂しそうやねん。神学教授なんですよ、この人。自由主義神学者。

ある時、イエス・キリストが数万人の人を前にメッセージをしますが、夜遅くなって、皆遠くの村から来ているので食べ物がない。この人たちを空腹のまま帰らせたくないの、少年が持っていた「5つのパンと2匹の魚」のお弁当を持って来させて、それを数万人の人々のご飯に増やしたんです。どんな風に増えたんでしょうね。ちぎるたんびにベロベロって増えたんか知りませんけど。とにかくパンをちぎり、魚をちぎっている内に、数万人の人たちがたらふく食って、しかも余ったと書いてある。それを見た人々は、「この方を王様にしたら、私たちは食いつぱぐれがない。王様になってください！」と話が発展して行きます。

自由主義神学では、これをどう捉えるか。食べる物がない。イエスが弟子に聞きます。「この人たちを養うのに、私たちはどうしてあげたらいいだろう？」弟子たちは「なんで私らが、そんな、せなあかんのですか〜?!」みたいな。すると少年が「5つのパンと2匹の魚」を持って来て、「こんなつまらない物ですけど、良かったら使ってください。」純粋な気持ちで自分の弁当を明け渡す姿を見た、その他大勢の大人たちが、「見てみ、あれ。黙っといたら分からへん。こっそり食べたら、自分の腹が満たされるのに持って行った。俺も出そう。」実は、数万人が全員持ってたんや。少年の純粋な行動に感動し、心責められ、「我も出す。」「我も出す。」言っているうちに、全員が満腹して余った。

そんな…。こういう風に読んで行くなら、それは聖書を読んだ事になりません。換骨奪胎(かんこつだつたい)して、信仰を働かせなくても解釈し、結局ヒューマニズムの物語にしている。奇跡の記録ではなく、ヒューマニズムの物語に転換してしまっているんです。

なぜこんな考え方が、19世紀になってドンと出て来たかという事ですよ。もう時間が…。焦ってます。18世紀・19世紀は大リバイバルの時代でしたが、19世紀半ばにイギリスで、世界中に大きな・破滅的な影響を与える1つの思想が生まれました。『ダーウィンの進化論』。

ダーウィン(1809-1882)が進化論を考えた国イギリスは、19世紀は黄金時代でした。なにしろ産業革命を真っ先にやった。それまでは何かを生産する・物を作るのは基本的に人間の手です。家内制手工業(かないせいしゅこうぎょう)とか言って、人間が手で働く。ところが、蒸気機関という動力を発明したので、動力に機械をくっつけて、機械に仕事をさせるようになったら大量生産時代。今までは手で細々とやっていたのを、機械をフル稼働させて、安い値段でたくさん作る事ができるようになった。

今までは太陽が昇ったら仕事始めて、沈んだら仕事終わり。でも、太陽のエネルギーで仕事するのではなく、石炭のエネルギーで仕事するようになり、結局、機械に人間が合わせて行くというような事ですね。それで貧富の差が出て来る。今までは干し草の国。ハッと気がいたら煙突だらけの国に変貌するわけ。そういう中で、イギリスは世界中に植民地を持ち、国も豊かになって行き、とにかく食糧を増やしていく

必要があったんです。

ダーウィンが進化論をどうやって思いついたか。詳しく言ったら3つの本ですが、時間がないので2冊にします。1冊は本というよりも、畜産業の品種改良にヒントを得るんです。

品種改良は、人間にとって都合のいいような動物にするために品種を改良して行きます。

例えば、牛なら肉付きの良い牛の方がいい。肉付きの良い雄牛と、肉付きの良い雌牛を掛け合わせると、肉付きの良い子牛が生まれる確率が上がりますね。痩せている牛は交配させないで1種で打ち止めする。このように、人間のために「こういう生き物にしたい」という意図に従って、選択的に交配を続けて行く事で生産量が上がる。

人間が選択的に交配して行くと、痩せた牛が姿を消し、肉付きの良い牛が増えて来た。

ダーウィンはこれをヒントにして、「自然界にも働きかけて、良いものを作ると考えたらどうだろう？」ここで彼はちょっと行き詰まりを感じます。牛の品種改良をいくら一生懸命やっても、牛以外の生き物を作る事ができない。牛の品種改良をしている内に馬が出て来たとか、キリンが出て来たとかあり得ない。牛からは牛のみ。「牛以外の生き物に品種改良できた成功例は1例もない」と言われる。しかし彼は、「何十億年もかけたら出来るかも分からない」と言うんです。

2冊目はアダム・スミス (1723-1790)。彼は経済学者で「見えざる手」。需要と供給。

何かを作った時、需要がどんどん増えて行くと値上げする。でも、値上げし過ぎると消費者からそっぽ向かれて、他の商品やサービスに乗り換えられるので売れなくなってしまふ。すると、売れるラインまで値段をまた下げる。だから、需要と供給というのは市場(しじょう)に任せておいたらいい。

ほったらかしにしていたら、最も落ち着くべきところに落ち着く。というのが「見えざる手」。

市場経済で競争に生き残るためには、消費者が言う事を無視できない。消費者の意見を聞けなかった頭の固い企業は倒れて、聞き分けの良い企業は頭がいいから強くなって残って行く。

ほったらかして自由経済によって強い企業が生き残る。と言っているわけです。

これを自然界に適応しました。自然界は、意図的にこれとこれを掛け合わせるという事ではない。

自然界の交配は行き当たりばったりでしょ。行き当たりばったりだけど、天変地異・干ばつ・大嵐などで、強いものが生き残って弱いものがふるわれて行く。自然界は、大きな篩(ふるい)にかけているうちに強いものが残る。経済学で起こる事を自然界に適応して解釈したんです。

経済学で自然界を解釈したのが進化論。実験観察の結果じゃないんですよ。

これがイギリスで爆発的に、圧倒的に支持されました。産業革命によって、19世紀の半ばから国内ではものすごい貧富の差。資本家ブルジョアとものすごい差。持てる者はますます持てる。

貧しい人たちは小学校も行けず、石炭を運ぶために炭鉱で四つん這いになりながら、ひどい劣悪な環境にいる。そういう時、「この考え方を適応すると、法律改正して福祉や社会保障を充実させる必要はない。強い者は強くなり、弱い者はダメになって行くのは、個人のレベルで見ると不公平かもしれないが、社会全体で見ると、進化のスピードを上げる事になる」と言ったんです。

当時のイギリスは海外に出て、植民地をたくさん持っていました。現地の人たちを牛や馬みたいにこき使って動物扱いした。「そんなの、人権から考えたらおかしいやろ！」いや、進化で考えてみて。

強い者が弱い者を支配して生き残って行くのは、進化の自然の法則になる。

自然の法則で、そういうのは起こっていないんですよ。でも、これが正しいと言ってもらえたら、自分た

ちがしている不公正・不公平を正当化する口実を得る事ができるのです。なので、資本主義が台頭し、最も強烈な資本主義国家であるイギリスで、進化論が爆発的に広がり、受け入れられて行ったんです。

自然界は「弱いものが死んで、強いものが生き残る」となっていない。それを言うと2時間かかりますが、1つだけ言わしてください。ゾウリムシ。ゾウリムシはバクテリアを食べます。どんどん食べて大きくなると、プチッと体をひねって2個になる。皆さんは太るだけ太っても、いつまでも自分のまんま。

ゾウリムシは大きくなると2つに別れて倍になる。その状態で、バクテリアが入った水槽にゾウリムシを入れてたらパーッと増えるのですが、ある時からバクテリアが少なくなります。

食べる方が倍々で増えて行くと、食べられる方は倍々で減って行くから、バクテリアが無くなりますね。その時、ゾウリムシの世界で生存競争が始まって、強いゾウリムシが弱いゾウリムシにパンチ！とか、なりません。

ゾウリムシは排便します。その便の濃度で人口密度をセンサーがキャッチして、これ以上増えたら餌が無くなって大変になると思ったら、食べるのを自制するんです。つまり、全体のために己の欲望を抑え、皆のために全体の和を考えてこらえるという。ゾウリムシみたいな奴でも。

これは、狼でも象でもシマウマでも。僕は説明しようと思ったらできます。が、時間ないから行きます。

自然界で起こっている事を観察して作ったのが進化論ではなく、経済界の論理を自然界に使って、経済学で自然界を解釈したのが進化論。だから、いつまで経っても進化「論」で、進化の法則にはならない。

黙示録 3:20 見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

わたし(キリスト)は戸の外に立ってたたいている。つまり、キリストが外に追い出されている。

ここは個人の事かもしれませんが、もしこれを教会とするならば、キリストが教会から追放されてるんですよ。キリストがいない教会。キリストが外に出されている教会。

しかし携挙があります。クリスチャンを引き上げるのが携挙です。

だけど、その時携挙されない教会が出て来ます。携挙されなかった教会は、患難時代前半、世界統一宗教(バビロン宗教)の主軸になると思います。

何としても、そうなって欲しくない。1人でも多くの人々が救われて欲しいと思っている。

そこで、「見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。」人の子が戸口まで来て叩いている。

まさに終末のメッセージだと思います。どうすればいいのか？

黙示録 3:20 だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

ここでは、人間を1つの家にたとえています。家には主人がいます。それはあなたです。

家には入口があって、そのオープン・クローズは主人に決定権がある。

お客さんが来た時、迎え入れるのか追っ払うのかは主人が決める事。

私たち一人ひとりの前で、キリストがノックしながら「わたしを受け入れなさい。」

特にここでは、自称クリスチャンのノンクリスチャンたちに構成されている教会のように思います。

「受け入れる」という事で、もう1箇所見ます。

黙示録 3:18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買い、

私は富んでいる。豊かだ。足りない物は何もないと言っているが、それは外面的な事だけだ。物質上の豊かさではない霊的な永遠のいのちという豊かさを持つために、救われるために、わたしから買いなさい。

I ペテロ 1:7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火（試練）で精錬されてもなお朽ちていく金（きん）（信仰）よりも高価であり、

火を試練、金を信仰に当てて説明しています。

だからここで、「火で精錬された金をわたしから買いなさい」という場合、私はこう考えています。

「キリストは、あの十字架で火の試練を受けながら、私たちの救いを完成させてくださった。」

「信仰（金）・信仰の実態・信仰の対象・信仰の中身である救いをわたしから買いなさい。」

間違っていないのは、免罪符/贖宥状のように、救いはお金で買えるというわけではありません。

ではなぜ「わたしから買いなさい」と言っているのか？

これを理解するためにもう1箇所見て、最後にしたいと思います。

イザヤ 55:1 ああ、渇いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。

さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。

これは非常に不思議な言葉ですね。何かを得る方法は2つです。

1つは、代価を払わずにプレゼントしてもらう。自腹を切っていないけど、「これ、高原さんに似合うと思うから」とネクタイを頂いたり、コーヒーを頂いたりして本当に潤っております。

でも、本当に気を遣わんとってくださいね。助かっておりますが、気を遣わんとってくださいね。

もう1つは普通の方法で、お金と引き換えに商品を買う。代価を払って何かを買う。

プレゼントされた時は「買う」とは言わず「もらう。」代価を払った場合は「もらう」ではなく「買う。」ところが、渇いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。

これは、金のない者に呼びかけている言葉。金のない者に、さあ、穀物を買って食べよ。無理やん。

「さあ、穀物をプレゼントしてもらって食べよ」なら分かります。「穀物おごったから、それ食べろよ」

なら分かりますよ。さあ、穀物を買って食べよ。金のない者よ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。

無理やって。そればかりか、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買え。これをやったら捕まります。

私はバブルの頃、商社で営業マンしながら、同時にこんな聖書講演会で、色んな企業でお話ししたりして、本当に不思議でした。昼間は営業所で営業マン。夜はその会社の経営者に聖書のお話をする。同一人物だと分からなかったと思います。その頃は若く見られるのが嫌で、もっと老けへんかなと。最近では逆の事ばかり思っていて、人間で勝手なもんですわ。

ある時（イニシャルで言いますね）もうなくなったけど、宝くじを扱うデーイチ勧銀という銀行が、中東問題について講義をして欲しいと。有馬温泉の向陽閣（こうようかく）で、企業家を招いて一日セミナーをやったんです。私以外に2人著名な講師がおられて私は3人目。サイン欲しいくらいの人たちだったけど、ちょっと体面悪いなと遠慮しました。

向陽閣はまあいい旅館です。

「有馬兵衛（ありまひょうえ）の向陽閣へ♪」は、浪花（なにわ）のモーツァルトと言われているキダ・タロー（1930-）が作曲したんですよ。「あそこに行くんや」思って。

講師だからハイヤー出しますと。自宅からですよ。1時間くらいかかる。「いや、いいですよ。」

バブルやから、お金が余ってしゃあない。「迎えに行きます。」「いや、いいです。」

住んでいる家、あまり見られなくなかったの。あまりにもちいちゃいから。あんまり言うから集合場所決めて、そこまで出向いて。タクシーじゃなくハイヤーですよ。乗り心地いいけど、はしゃいだら子供みたいやから、ふんぞり返ってじっと。

向陽閣に着いたら、もう女将から何からズラッと並んで「いらっしやいませ。」

偉い先生が来るんやという事で。私、まだ30代前半。順番まで2時間くらいあるので控室へ。

控室言うても4畳半みたいなんじゃないなくて、270度展望できる窓枠のない部屋。大阪が上から見える。

入ったら香が焚いてあって、一瞬「ここ仏壇か？」そうじゃない。

仲居さんがお茶を入れてくれたら、そのお茶に金粉が入っている。金は金属やんか。

「金なんか飲んで、大丈夫か?!」思いながら「ネタになるわ。」

指で金だけ集めて、取り出したりして。庶民や。

順番待ちの間、見直していたのですが、慣れない環境はやっぱ落ち着かない。

いつも家狭い。ここ広い。家片付いてない。ここキレイ。家やかましい。ここシンとしてる。

心が落ち着きを失いまして「自分の分にあつた所に行かなあかん。」

ホテルのレストランでコーヒー飲もうと、サッと開けたら、仲居さんが待機してるんです。

私専属なんですね。なんぼ、金余ってんねん。「何してはるんですか?」「いつでも用事言ってください。」

そんな、人が近くにいると思って、準備できますか? できる人もいるでしょう。僕は庶民だから。

「どうしてもここにいなきゃいけないのなら、好きなだけここにいてください。僕が今から行く所には付いて来ないでください。」

レストランに行ったら、皆雑談したりして適度な騒音。それで気持ちが穏やかになって、「俺が求めていたのはこれや。」それで準備したんですが、ちょっと小腹がすいたので「コーヒーとサンドイッチ下さい。」

「アイスクリームあるかな」と思ってメニューを見たら、確かコーヒーが1500円くらいでした。

サンドイッチが3000円近い。「ちょっと撤回。コーヒーだけにしてください!」

ほんまにみみちいわ。お代わりにできるコーヒーでした。

準備できて、そろそろだと「おあいそ」言ったら「結構です」と。「いや、飲んだんだからお支払いします。」

私、講師だから胸証が付いているんです。デーイチ勧銀の。「講師の先生方の飲食費は、全部銀行から出ますので結構です。銀行からお支払いを受けていますので大丈夫です。」

なんでサンドイッチ撤回したかな…。言うといったら良かった…。その時に、これを思い出したんですよ。「金のない者よ、金を払わずにコーヒー飲め」みたいな。

なぜ金を払わずに買えたかという、受け取る者は金を払ってないけど、受け取り手ではない別の方が、代わりに代価を払ってくれているからです。

私たちの救いという金（きん）はタダですが、価値のないタダではなく、キリストがご自分の命で支払ってくださったがゆえに、私たちにとってはタダなんです。だから、「さあ、火で精錬された金をわたしから買いなさい」と言われました。でも、買うといっても私は払わないんです。払えないですよ。

そのように呼びかけているというのは、まさにこれは、ノンクリスチャンに対するメッセージです。

黙示録 3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。  
それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

わたしの座に着かせる。わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。  
これは千年王国での座ですよ。もし救われるなら、あなたもそこに行くのだと語ったんですね。  
最後に、患難時代が終わった後の世界/千年王国の祝福について語っているのです。

黙示録 3:22 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。

教会史的には、1 番目エペソ教会。使徒時代の教会。30-100 年くらい。(黙示録 2:1-7)  
AD100 年頃にヨハネが死んだのではないかとされています。使徒が生きていた時代の教会。

2 番目スミルナ教会。迫害時代の教会。100-313 年。ローマによる大迫害の時代。(黙示録 2:8-11)

3 番目ペルガモン教会。国家と結婚した教会。313-600 年。(黙示録 2:12-17)  
313 年はキリスト教が公認された年。公認された後 392 年に国教化され、ローマ帝国の国家宗教になってしまいました。国家宗教とは国家と教会が結婚するという事。ペルガモンは結婚という意味。  
教会の夫はキリストであるはずなのに、地上権力と結婚してしまったんです。

4 番目ティアティアラ教会。異教に支配された教会。600 年から。  
中世のこの時代は、異教によって完全に支配されてしまいました。(黙示録 2:18-29)

5 番目サルディス教会。死んだ教会。1517-1648 年。(黙示録 3:1-6)  
1517 年はルターの宗教改革の年で、1648 年はウエストファリア条約が結ばれた年。  
その後、独立国家・国際法が整備されて行きます。

6 番目フィラデルフィア教会。大リバイバル・大宣教時代の教会。18-19 世紀。(黙示録 3:7-13)

7 番目ラオディキア教会。背教の教会。1900 年から今日まで。(黙示録 3:14-22)  
(\*ペルガモン教会からラオディキア教会の特徴は筆者加筆)

8 番目の教会は出て来ない。教会時代はここで終わっている。  
という事は、ラオディキアの後に来るのは、新しい教会の時代ではなく別の時代。それが患難時代ですが、患難時代に行く前に、教会は携拳されて、天に引き上げられます。  
天に引き上げられた教会の様子を描いているのが、次回見る 4 章と 5 章です。

いよいよ黙示録の本領発揮のところに入っていきますが、是非続けて聞いてください。  
そして、聖書が誤りのない神の言葉であると確信なさり、是非、イエス・キリストを救い主として、信じ受け入れてくださいますように、心からお勧めして終えたいと思います。



- \* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」
- \* ラジオ番組「聖書と福音」(約 14 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。
- \* YouTube「ごうちゃんねる」(約 10 分) も是非見てください。

動画筆記 : Rumi

